

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第10週 (3/2-3/8) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		10週	9週	8週	7週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	4
インフルエンザ		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	3/2-3/8	2/23-3/1	2/16-2/22	2/9-2/15	2/23-3/1
			10週	9週	8週	7週	9週
小児科	RSウイルス感染症		4	2	3	3	21
	咽頭結膜熱	○	7	4	2	3	42
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	68	46	53	70	491
	感染性胃腸炎		126	126	115	130	914
	水痘		8	2	4	7	58
	手足口病		0	1	1	0	7
	伝染性紅斑		7	6	11	11	58
	突発性発しん		8	7	15	10	54
	百日咳		0	0	1	0	0
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎		6	4	3	6	55
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		89	194	198	255	1,651
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	2	3	4	19
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	1	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		1	0	0	1	1

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	20歳代	血清抗体の検出
結核	男性	40歳代	画像診断等	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	梅毒	男性	50歳代	血清抗体の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	-	-	-	-

・結核4件(38)、梅毒3件(4)の報告があった。

※ ( )内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第10週のコメント

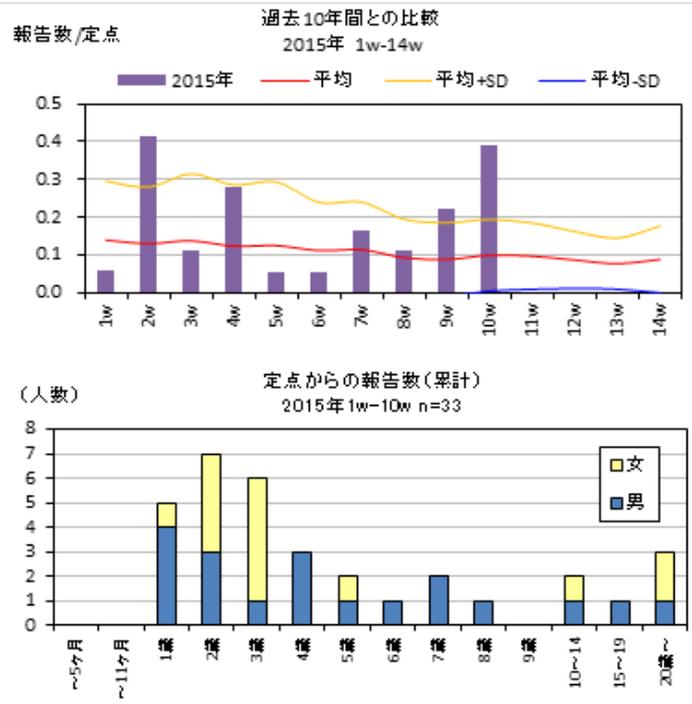
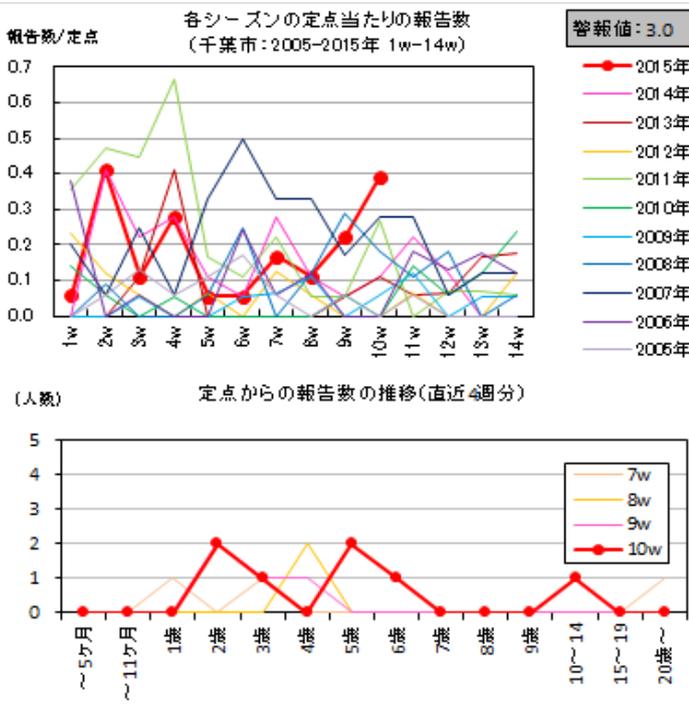
<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し3.78となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<咽頭結膜熱>

全国レベルの2015年第9週現在は、過去8年間の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、山形県、宮崎県、石川県及び北海道の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第10週は、前週より更に増加し0.39となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況では、美浜区(1.0/定点)で最多で、同区の2歳、3歳、5歳及び6歳で発生が報告されました。2015年第1週から第10週現在の累積報告数(n=33)によると、性別では男性が57.6%(19名)、女性が42.4%(14名)で、年齢階級別では2歳(21.2%:7名)、3歳(18.2%:6名)、1歳(15.2%:5名)の順に多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの2015年第9週現在は、前週より増加し過去8年間の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、鳥取県、石川県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第10週は、前週より増加し3.78となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、若葉区(7.5/定点)で最多で、同区の4歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第10週現在の累積報告数(n=967)によると、性別では男性が54.9%(531名)、女性が45.1%(436名)で、年齢階級別では6歳(16.2%:157名)、5歳(16.0%:155名)、7歳(13.1%:127名)の順に多くなっています。

